

2026年4・5月受入

新着図書のご案内

姫路市立城郭研究室



「杉戸絵の研究」

木下京子/編
思文閣

「秀長と郡山城」

大和郡山市まちづくり戦略課

「幕藩アーカイブズの資源化研究」

大友一雄
思文閣

「青山史学 第44号」

青山学院大学史学研究室

「熊本城調査研究センター年報 11 令和6年度」

熊本市熊本城調査研究センター

「有岡城跡発掘調査報告書XXX」

伊丹市

「FUT 福井城郭研究所年報 ・研究紀要 2025 No.13」 FUT 福井城郭研究所

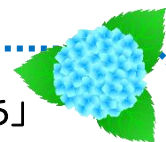
「園城寺の彫刻（上）（下）」

大津市歴史博物館

「国宝法隆寺五重塔の鉄釘にみる形態変化と規格の選択と変遷にかんする通史的 研究」 奈良文化財研究所

「戦国人脈 交流する武将たち」

大阪城天守閣



「佐渡島の金山 世界遺産登録記念誌」 新潟県観光文化スポーツ部文化課 世界遺産室

「倭国の遺宝」

黒川古文化研究所

「松江城下町遺跡 (東本町一丁目2-1 外)」 松江市

「小豆島大坂城石垣石丁場跡 調査報告書」

小豆島石丁場調査委員会





今月のおすすめ本紹介！！



「近世後期の大家家格と儀礼の政治史」

篠崎佑太 著

江戸時代の大名は、徳川將軍家との血縁関係や幕府における格式、すなわち「家格」によって厳格に序列化され、「儀礼」が行われる際はその家格が席次に影響する関係にありました。本書ではとくに、將軍家ゆかりの諸大名が控える「大廊下之部屋」にみる大名の移り変わりに着目し、その「家格」と「席次」の変動にみる大名の政治的な駆け引きを明らかにしています。

「名古屋城調査研究センター 研究紀要第7号」

名古屋城調査研究センター

名古屋城調査研究センターで毎年発行されている研究紀要。収録論文では名古屋城石垣で浅野幸長が担当した箇所だけに見られる「和泉砂岩」を取り上げ、表面観察などの調査を通して自国で採取された石材である可能性を指摘しています。

これまで姫路城の城主池田輝政も、自国で採れた石材（亀山石）を名古屋城石垣に用いた可能性が考えられてきました。現在、非破壊検査しかできない制約から産地の特定には至っていませんが、浅野家にみる類例から池田家も同様に自国で採れた石材を用いた可能性がより高まったといえるでしょう。

- ※ 上記の図書は、日本城郭研究センター2階 城郭資料特別閲覧室にて閲覧していただけます。
- ※ 貸し出しはしていません。
- ※ 開室時間は、月曜日から金曜日 9:00~12:00 13:00~17:00
- ※ 土、日曜日・休日・年末年始は閉室しています。
- ※ 上記の図書以外にも姫路城や姫路の歴史に関する蔵書など貴重な書物をたくさん収蔵していますので、興味のある方は、是非お越しください。
- ※ 城郭研究室への問い合わせ先及びホームページは、下記のとおり。



姫路市立城郭研究室（日本城郭研究センター2階）

TEL 079 (289) 4877

URL <http://www.city.himeji.lg.jp/jyokakuken>